



義援金到達 4,215,733円

みんなの心に、勇気と希望を…

がんばれ東北！ がんばれ気仙沼！ がんばれ唐桑！

9/9～11 気仙沼市唐桑地区復興ボランティアツアー報告 その⑤

お互いが協力しあい一步一步前に向かって進もうとする現地の方々の姿は頼もしく、そこには確実に復興の兆しが感じられました。

今回の私たちのツアーが本当に現地の方々のお役に立てたのかわかりません。もしかして迷惑なこともあったかも知れません。

でも、ボランティア側も受け入れ側もお互いが感謝の気持ちで「ありがとう」といえる環境はとても気持ちの良いものでした。弾丸でしたが充実したツアーでした
戸塚病院 堀切 千央

特別なスキルがない中でボランティア活動に行って現地の要望とうまくマッチするのか、出発前は不安がありました。しかし、それは杞憂に終わるとともに、2日目の昼食時にホテル支配人がこちらからお願いする訳でもなく自ら震災当日の事を語りだしたのが印象的でした。

被災地に対して「あなたのそばにいます」と直接コミュニケーションを取ることの大切さを、私はこの復興ボランティアツアーで学びました。 本部 高橋 勇美



一度は現地を訪れたいと思っていました。被災後6ヶ月も経つのに復興が進まない実態と、自分たちの手で復興しようとしている話しを聞くだけで、このツアーに参加する価値があったと思っています。

「国や県の支援を待っていても進まない。自分たちができる復興を、地域の力を合わせて進めようとしている唐桑地区の皆さんは、国と県が進めようとしている上からの復興計画に対するアンチテーゼとして、光り輝いていました。その一端に触れ、お手伝い(現地の方々にすれば足手まといでしょうが)できたことに喜びを感じています。

唐桑の皆さんだけでなく、旅館の運転手さん、社長さん、昼食でお世話になったホテルの支配人さん、それぞれが自分の言葉

で震災を語り、復興への思いを語ってくれました。あれは各自が自発的にやったもので、頼んでやってもらったものではないと、後で添乗員さんが教えてくれました。ホテルの支配人さんは、「震災後初めて団体の皆さんを受け入れました。いらっしやいませというのがうれしくて」と話していました。様々な皆さんが懸命にがんばっている姿を見聞きし、そして被災された現地を見ることは、これから長期間続く、支援活動を支えるエネルギーになります。機会があれば絶対に行きましよう。

横浜勤労者福祉協会 大間知 哲哉





みんなの心に、勇気と希望を…

がんばれ東北！ がんばれ気仙沼！ がんばれ唐桑！

9/9～11 気仙沼市唐桑地区復興ボランティアツアー報告 その⑥

ボランティアに参加し感謝され、



(左から) 小林さんと小島さん

驚きと嬉しさが…

学生 小島 真理子

半年が過ぎても被災のつめ跡がひどく残っているのを目の当たりにして、とても心が痛みました。家屋が倒壊して、土台だけが残り、家の形跡がなくなっていました。瓦がはがれて、バラバラ

になっていました。線路が途中で切れてなくなっていました

た。その線路がなくなるかもしれないと聞いた時、乗ったことはないけれど悲しくなりました。今回のツアーでテレビ・メディアだけでは知ることのできない現地のありのままを見ることができました。

自分の微量な力でありながら、手伝えたことに本当感謝しています。ボランティアに参加したことに対して感謝されたことに驚きと嬉しさがわきあがりました。これからも続けていきたいと思いました。



東北の人々の心の強さを

学生 小林 広実

知ることができました

震災から半年が経過し、ニュースもおちついてきていたので、復興は順調に進んでいるのかと思っていましたが、実際に被災地に来て、荒れたままの土地と瓦礫の山を見て、愕然としました。私が半年前にテレビで見た光景とあまり変わっていなかったからです。それでも商店が再開し、人々が暮らしている様子も見られ、当時の状況を詳しく説明してくれる現地の方々が出て、東北の人々の心の強さを知ることができました。

初めて参加したボランティア活動でしたが、被災地の現状を自分の目で直接見ることができたことは、とても貴重な経験となりました。機会があれば、また参加し、東北地方を応援し続けていきたいと思ひます。



取材を受ける二人



福島医療生協 わたり病院<看護師支援>



福島医療生協
わたり病院

この地で放射線問題と向き合い、 ここに生活し、共同組織の方たちと

共に地域医療を守る

戸塚病院 地域連携室 中島 美津子



仮設住宅 集会場での「茶話会」の様子

9/19～26までの8日間、福島医療生協わたり病院で看護師支援を行ってきました。放射能の影響を受け、日々の生活に計り知れない不安と恐怖を抱えながらも、地域医療を守り頑張っている職員に休暇保障を進めるための支援です。

地域の中核病院であるわたり病院(196床)で私は内科病棟に入り、シーツ交換・清拭・排泄介助・食事介助などフルに業務を行ってきました。被災後、がんや介護難民に加え、透析難民が増え、帰る家がなく身の回りの物をすべて持って入院してきた方もいました。

9/22の午後、浪江町から避難の仮設住宅訪問をしました。福島医療生協では月に1回、仮設住宅の集会場で「茶話会」を開き健康相談も行っています。この日、12の方が集まってくださいました。言葉がなかなか出ず、あきらかにうつ的な表情の方もいて、家族が離れ離れ、生活の見通しが立たない、健康不安などのたくさんの方の問題を抱えています。じっと手をとって話を聞くことが精いっぱいでした。今一番つらいと思うことについて全員一斉に“ボーっとして何もしないこと”と言っています。元に戻れることが一番ですが、生活相談がいつでも受けられることや地域のコミュニティーに力を入れ、きめ細やかな孤独を作らない継続した取り組みが必要であることを痛感しました。

放射能汚染については、福島市内では渡利地域が最も高いと言われています。多くの不安の中、福島医療生協では「この地で放射線問題と向き合い、ここに生活し、共同組織の方たちと共に地域医療を守る」姿勢で、内部被曝の低減の取り組み、検診体制の確立、事故収束への監視、脱原発への政策見直しを正しい学習をしながら取り組んでいます。



中島看護師(左)と仮設住宅入居者

わたり病院の放射線量

2011年9月30日現在

- 病院玄関前 0.85 $\mu\text{Sv/h}$
- 病院待ち合いホール 0.09 $\mu\text{Sv/h}$

※各所1mの高さで測定しております。

計測機器
電離箱サーベイメータICS-331 ALOKA

福島医療生協のホームページに掲載されている放射線量

「福島に来てくれてありがとう」とたくさんの方々と言われてうれしく思い、また、とても柔らかく温かな福島の方言にとっても癒され、あっという間の8日間でした。これからも息の長い支援が必要です。必要とされること、自分にできること、ささやかでも支援をし続けたいと思います。

『東日本大震災』復興支援ニュース

2011年10月19日(水) No.48



放射能被害から子どもたちを守ろう! ④と東京電力は原発事故の全面賠償を!

なくせ!原発 安心して住み続けられる福島を! 10・30大集会

in ふくしま 福島市・四季の里
特設ウォーターステージ

イベント 10/30日

11:00~
[交歓会テント]

子どもたちのこと、原発事故のことを学び、語り合えるテントを設けます。6,000人参加の集まりを、大盛況もありません。

13:00~
[ふくしま大集会]

「なくせ原発!」から始まる「福島」の語り合ひの集まり。子どもたちも、大人も参加が盛りだくさん。話し合いの場も設けています。

12:00~
[元気ステージ]

元気!全国のなごまたち!
福島と全国の子どもたちが集まる思いのこめステージ。太鼓、音笛など福島の伝統も披露して下さいます。

14:15~
[アピールパレード]

食糧支援パレード、原発事故の語り合ひをテーマにしたアピールパレード。



よびかけ人

- 青木 千代義 さん
- 黒川 智子 さん
- 小野 真由 さん
- 片岡 舞 さん
- 新井 新一 さん
- 岡井 学 さん
- 手川 舞 さん
- 広田 次郎 さん
- 橋本 新 さん
- 山内 泰夫 さん
- 山田 潤 さん
- 吉原 真由 さん

10・30大集会 in ふくしま実行委員会
〒980-0141 福島市東区南町3-8 福生会福島県民センター2階
Tel:024-525-8016 Fax:024-525-8018 Mail:ica10-30@egata.plala.or.jp

※ 医療生協かながわから 32 名が参加します。
※ 福島の仲間に放射線測定器を送るための募金にご協力下さい。
目標 50 万円
到達 39 万円

わたり病院の放射線量

2011年10月18日現在

- 病院玄関前 0.75 μSv/h
 - 病院待ち合いホール 0.10 μSv/h
- ※各所1mの高さで測定しております。

計測機器
電離箱サーベイメータICS-331 ALOKA

がんばれ東北!
がんばれ気仙沼!
がんばれ唐桑!

民医連新聞 10/17 号より

茅ヶ崎西支部ニュース

医療生協かながわ
茅ヶ崎西支部
支部長 古田利男 85-6482
No.79 2011・10・1

唐桑地区(気仙沼市)復興ボランティアに参
夜行バス一泊二日でホタテ養殖のお手伝いに唐桑に行ってきました。
被災地に入ると眼に見えてくるのは津波にあつた家、瓦礫撤去のあとに雑草が、何もなかったように覆い茂っており、草も負けずと生きているんだと、力強さと腹立たしさと、何ともいえない悲しい気持ちになりました。
メインストリートであつただらう商店街、銀行、病院、一部建物は残っているが人ひとりいなく、かつてはここで生活して、にぎわっていたでしょう町並みが廃墟となつてしまいました。
ホタテ養殖の島山さんの当時の話で、ホタテが全滅状態、何もかも失ひ大型船だけ修理工場で無事であると確認されました。
流された船、ブイ、皆で捜し拾ひ集め、広島、北海

海がきれいなには驚きました。海底までできといて、小魚がいっぱい泳いでいました。魚場の人達皆で瓦礫を片付けたそうです。皆さん明るくて、負けてたまるかという意気込み、力強さかもしひしと感じられホッとしました。
(栗川町・志本弘子)

道業者さんから援助もあり、めどがついたので仕事ができるようになったと、当時の苦勞を話されました。牡蠣養殖作業所では種牡蠣をひとつひとつのロープに挟む作業をしました。船に乗り、沖のロープに種牡蠣をつるす作業もしてきました。

カキの養殖を支援

医療生協かながわ
【神奈川県】当医療生協職員と組合員三八人が九月九日、二日、津波で被災した宮城県気仙沼市唐桑地区にボランティアで入り、漁場でカキの養殖を支援しました。唐桑地区はカキが特産ですが、



種カキを洗浄する医療生協かながわの齋藤彰久さん(右)と上田幸志さん

震災で養殖作業が大幅に遅れていきます。職員と組合員はバスで現地入り。地元の漁師にコツを教えてもらいながら、海中から取り出した種カキに付着したホヤを取り除いたり、種カキをロープに挟んで沖のいかだにくくり付ける作業を行いました。参加者の一人はこんな感想を述べています。
「被災地の壊滅的な光景に言葉が失ひましたが、その中で必死に復興を掲げ、たくましく活動している方々と交流できて人生観が変わりました。養殖がとも手間がかかり大変なこと、それを生業とする皆さんが、プライドを持って携わっていることに感動しました。」
(医療生協かながわ復興支援ニュースより)





《南三陸町訪問記》

胸のつかえが少し取れたお休み

ふんぼろう
東北！

深沢中央診療所 所長 宮下 明

8月終わりに夏休みを1週間いただいて、家内と南三陸町にボランティアに行ってきました。僕は東北大なので、留年中や6年の夏休みに公立志津川病院に実習に行ったり、釣りに行ったり、なんども訪れた町でした。この頃仕事のしすぎで（決してギターの弾きすぎのためではありません）手首も膝も痛いし、できる仕事があるかなと危ぶみながら行ったのですが、ありました、ふれあいカフェの仕事。

同町の歌津地区に平成の森仮設住宅（246戸）があり、入居された方々の出会いの場所として、「あづまーれ」（集まれ！という意味らしい）というカフェを社



カフェ あづまーれ

会福祉協議会が管理しています。仮設住宅にはいろんな地区から来られていますから、お互い知り合うため、2DK（4畳半）の部屋から外に出てきてもらい、臨床心理士さんのグループがお茶やお菓子を出しながら話し相手になります。一日に100人くらいみえてましたかね。くるくる代わるボランティアの人間が（僕らのことですが）話しかけたり、質問したりするとストレスになるので、にこにこだけしてあまりしゃべらず、飲み物を作ってください、と心理士さ

んに最初にいわれたのが印象的でした。子供たちのお絵かきや、絵本の読み聞かせの場所でもあるし、ジャズバンドや、コーラスグループなどイベントもあるそうで、ゆったりとした、いいオープンカフェでした。避難生活のなかでやはり人とのつながりが大切なことを再確認しました。

用意していったヘルメットも、靴の鉄板入り中敷きも必要ありませんでしたが、久しぶりに診療所の仕事から離れ、いいお休みを過ごせました。

ただ、帰りに寄った石巻は地盤が沈下したこともあり、海沿いは水浸しで、ヘドロの臭いも残り、まだまだひどい状況です。次の休みは石巻かな。ネットでの「ふんぼろう東北」支援プロジェクトもよろしく願います。



【深沢中央診療所だより 36号より転載】

福島県の組合員支部・事業所に

放射線測定器を送ろう！

36支部13事業所から438,085円が集約されました。（目標50万円）
募金は、測定器3台分の購入となり、福島中央市民医療生協の川北西支部・川南西支部・飯坂支部に送られました。

